主観評価法レポート
※次の項目から必要なものだけを残す　現象観察・明るさの対比・古典的精神物理学・心理尺度の構成・大きさの恒常性・クラスター分析

　　コース

学生番号：

提出者氏名：

実験日：　年　月　日〜　月　日
実験場所：
提出年月日：　年　月　日

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 学科 | 学生番号 | 氏名 | 役割分担 |
| 1 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 2 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 3 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 4 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 5 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 6 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 7 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 8 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 9 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 10 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 11 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |
| 12 | 　　 | 　　 | 　　 | 　　 |

# まえがき

ここにまえがきを書く。研究の背景，および目的を記述する。

このテンプレートは，Microsoft Word用である。見出しには適切なスタイルを設定すれば，自動的に節番号が割り当てられる。

文献引用の例を示す (Licklider and Miller, 1951; Jones et al., 1990) 。本文中に引用した文献は，全て末尾の文献リストに正確な書誌情報を記載すること。

# 方法

ここに方法を書く。第三者が実験を再現できるように書くこと。

## 小節の例

このように小節に分けて記述できる。たとえば，実験参加者，刺激，手続きをそれぞれ別の小節に分けて書くことができる。

表の例を表1に示す。あるいは，「〜が得られた（表1）」のように表を参照することもできる。

表 1 　低域通過フィルターの周波数特性の例。

|  |  |
| --- | --- |
| 周波数 (Hz) | 利得 (dB) |
| 100 | 0.0 |
| 500 | 0.0 |
| 1000 | 0.0 |
| 5000 | -3.0 |
| 10000 | -12.3 |

# 結果

ここに結果を書く。

図の例を図 [1](#fig:filter)に示す（図中の文字は単位等を除いて日本語表記で構わない）。図にはキャプションを付ける。



図 1　低域通過フィルターの周波数特性の例。 減衰傾度 (dB/octave) は $b/a $で定義される。Cutoff frequencyは，遮断周波数のこと。

# 考察

ここに考察を書く。

文献

Jones, D. M., Miles, C., & Page, J. (1990). Disruption of proofreading by irrelevant speech: Effects of attention, arousal or memory? *Applied Cognitive Psychology*, 4, 89–108.

Licklider, J. C. R., & Miller, G. A. (1951). The perception of speech. In S. S. Stevens (Ed.), *Handbook of Experimental Psychology* (pp. 1040–1074). New York: John Wiley.